

令和5年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

1. 看護職の復職支援におけるニーズ：インタビュー調査

| | | | |
|-------|---------|---------------|-------|
| 研究代表者 | 武村 雪絵 | 東京大学医学部附属病院 | 看護部長 |
| 研究分担者 | ○市川 奈央子 | 杏林大学保健学部看護学科 | 講師 |
| | 磯部 環 | 東京大学大学院医学系研究科 | 助教 |
| 研究協力者 | 高橋 好江 | 東京大学大学院医学系研究科 | 特任研究員 |
| | 橋本 美穂 | 日本看護協会 | 事業局長 |
| | 三浦 昌子 | 愛知県看護協会 | 会長 |
| | 佐藤 浩子 | 東京都ナースプラザ | 所長 |

研究要旨

本研究では新たな復職支援プログラムの開発ニーズを同定し、実現可能な実施方法を検討するため、復職支援における看護職のニーズを具体的に把握することを目的にインタビュー調査をおこなった。

令和4年度に実施した看護職の復職支援の利用状況とニーズのWEBアンケート調査への参加者（看護職として3ヶ月以上の離職経験があり、ナースセンター等の支援を受けて復職したことのある者）のうち復職支援をうけた経験があり、インタビュー調査に同意した者のなかから対象者を選定した。半構造化面接を用いた質的記述的研究で、令和5年6月から7月にかけてオンラインでインタビューを実施した。離職後から復職するまでにうけた支援の内容、支援をうけた時期、支援をうけた理由や動機、復職にあたり役立った支援、必要とおもう支援を尋ねた。

「潜在看護職の復職支援に関する実態調査（審査番号2022205NI）」として、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認を得て実施した。

12名の看護職がインタビュー調査に参加した。復職支援は再就職を意識し復職を検討する段階、実際に復職の準備する段階、復職後の段階、いずれの段階にいる看護職にとっても必要であることがあきらかになった。そしてその段階により、必要とされる復職支援は異なり、個々のスキルや希望の就職先に応じてカスタマイズ可能な、自由度の高い研修プログラムの必要性が明らかになった。一方、看護職本人だけでは自身に必要な復職支援内容を取捨選択することが困難な状況があることも明らかになった。新たな復職支援プログラムを検討するうえで有用な資料を得ることができた。

A. 研究目的

潜在看護職の復職を促進するため、都道府県ナースセンターではそれぞれ実技研修等を実施している。令和4年度(2022年度)にナースセンターを介して研究協力者を募集し離職経験のある看護職を対象に復職支援の利用状況や復職支援への要望等を把握するためにWEB質問票による横断調査を実施した。しかし、この調査ではこれまでに受けたことのある復職支援の具体的な内容・提供方法やニーズの詳細まではWEB調査票による調査であったため明らかにすることに限界があった。そこで本研究では新たな復職支援プログラムの開発ニーズを同定し、実現可能な実施方法を検討するため、復職支援における看護職のニーズを具体的に把握することを目的にインタビュー調査をおこなった。

B. 研究方法

半構造化面接を用いた質的記述的研究

1. 対象者

令和4年度に実施したWEB質問票によるアンケート調査の参加者(看護職として3ヶ月以上の離職経験があり、ナースセンター等の支援を受けて復職したことのある者)のうち復職支援をうけた経験があり、インタビュー調査に同意した者のなかから対象者を選定した。インタビュー調査の案内メールを送信して調査参加を依頼した。

2. 方法

インタビューはオンラインで実施し、参加者の同意を得たうえで音声を録音した。インタビュー時間は一人当たりおおよそ60分とした。

3. 期間

令和5年(2023年)6月から7月の2か月で実施した。

4. 調査内容

インタビューでは、離職後から復職するまでにうけた支援の内容、支援をうけた時期、支援をうけた理由や動機を尋ねた。他にも、復職にあたり役立った支援、必要とおもう支援を尋ねた。

5. 分析

インタビューの録音データから逐語録を作成し、質的帰納的に分析をおこなった。研究者複数名で逐語録を精読し、復職支援の方法・対象者・時期がどのようなものであったか、支援がどのように機能したかの視点で意味内容ごとにまとめて分析した。

6. 倫理的配慮

本調査は「潜在看護職の復職支援に関する実態調査(審査番号2022205NI)」として、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認を得て実施した。参加者には自由意思による研究参加を保障し、個人情報の保護に努め、個人の特定につながる情報は公開しないなどの配慮を行った。

C. 研究結果

1. 参加者の属性

調査には12名の看護職が参加した(表1)。参加者の年代は30代が5名、40代が6名、60代が1名であった。地域は5名が大都市部、6名が市部、1名が郡部であった。離職期間は最長13年ほどであった。

2. 看護職の復職支援へのニーズ

インタビュー参加者は座学と実技演習が組み合わせた復職支援プログラムに参加した者が多く、病院等の施設での実習や見学の研修、個別相談を利用した参加者もいた。

「復職支援を受けようと思った動機・経緯」「復職に役立った支援」「復職に向けてもっと必要だと感じた支援」の主な回答を表2に示す。

復職支援プログラムの対象者は離職者に限られているものもあったが、ナースセンターに相談し復職後に参加している者もいた。対

象者については、復職希望者だけでなく、復職後に再就職先の施設での仕事に関わる内容で復職支援プログラムを希望する者がいた。さらに、復職するかどうかを迷っている離職者にも気軽に受けられるものとして募集してもらえると良いとの要望があった。

座学と実技演習が組み合わせた復職支援プログラムの内容については、病院就職を想定した内容が多いため、介護施設やデイサービスへの就職希望者向けの内容も開催してほしいとの意見があった。具体的な内容では採血、注射・点滴演習、感染管理、医療安全、吸引、フィジカルアセスメント、バイタルサインの見方以外に、看護計画の立案や記録やカルテ開示に関する法律をインタビュー参加者は受講していた。介護施設などで働くことを想定した場合には、経管栄養の管理、血糖測定、吸引、エンゼルケアの要望があった。電子カルテについては「復職後に多少なりともこんな感じというのがわかっていれば助かる」との意見があった。

一方、学習した内容が必ずしも就職した先で同じように扱われることがなく臨床現場で対応できなくなったという経験も語られた。他には、復職支援プログラムに参加することで忘れた知識を振り返ることが出来るだけでなく、他の参加者と交流することで「自分だけじゃない」という安心感も得られたと語られた。

医療施設での実習・見学をおこなう復職支援では、研修先の病院で数日間の座学と半日～1日間の病棟見学が組み合わされていた。他には参加者の希望に沿って複数ピックアップされた病院から見学先を参加者が選択できるプログラムもあった。内容としては最新のME機器の使い方、BLSを含む救急処置のこと、在院日数や保険点数などの最新の医療制度、病院の説明と施設案内、委員会の有無、看護研究の実施、業務内容、介護士の比率、看護体制、さらに研修先施設の特性にそった具体的な内容を学習していた。インタビュー参加者からは病院によって重点となる看護や使用物品が異なることを学べ、病院での実際を見たほうが就職につながりやすいとの意見があった。他のインタビュー参加者からは病

棟見学は半日から1日が多いが、連日して同じ患者を見る、看護提供体制や業務の流れなどわかるような研修を希望する意見や託児所など福利厚生面は自ら質問しにくいとの意見もあった。

個別相談を利用したインタビュー参加者からは心強かったとの意見のほかに、就職先をさがすうえでは個々の背景やスキルを理解した上での情報提供やアドバイスを求める意見もあった。

D. 考察

復職支援に参加する看護職には、「非就業で復職を希望し就職活動をしている者」以外に「非就業であるがすぐに再就職は考えていないまたは考えられない状況の者」、「復職後まもない者」がいることがわかった。ナースセンターは申し込みをしてきた対象者の状況を確認して復職支援プログラムに受入れる対応していることがわかった。すぐに再就職につながりなくとも長期間、看護技術や知識から離れ、潜在化を深めないためにも復職支援研修は役立つと考えられる。そして、復職まもない看護職にとっては復職するまで気がつかない不足している知識や技術を復職先のOJTで学ぶのではなく、別に時間をとって研修として受講することの重要性が語られた。また、すぐに復職を希望する者のなかには、自分が働きたい施設が念頭にありそこに役立つか否かを考えて研修に参加していることがわかった。以上のことから復職支援を選択する際にどのプログラムが効果的であるかをアドバイスする必要もあるだろう。

本調査の参加者に最も活用されていた復職支援は座学と演習は組み合わされたプログラムであった。会場に集合し対面でおこなわれる研修では知識・技術を習得するだけでなく、他の潜在看護職との交流の機会となったり、ナースセンターの看護職経験のあるスタッフに相談する機会になり、これらが復職に向けて役立っていることがわかった。医療施設での実習・見学は復職を希望し具体的に再就職を考えている参加者にとって最新の機器の取り扱い、医療制度や看護体制、就業に直結する内容が含まれており満足度が高いことがわかった。ただどちらのプ

プログラムも受講したいタイミングで研修が開催されていないと語られており、タイミングよく必要な研修が提供できるような工夫を考える必要がある。e-ラーニングは各ナースセンターで活用しているところが増えているが今回のインタビュー参加者からは効果的に活用されているとの語りはなかった。使用したいという要望はある一方、対象者が有効に活用できない状況について、アクセスしやすく対応できるような仕組みを考えていく必要がある。

個別相談への要望からも、看護職は個々のスキルや状況を理解されたうえで同じ看護職経験のある者から個別性のある情報提供や提案などの対応されることを期待していることが明らかになった。

E. 結論

本調査では、新たな復職支援プログラムを検討していくため復職支援における看護職のニーズを具体的に把握した。復職支援プログラムは再就職を意識し復職を検討する段階、実際に復職の準備する段階、復職後の段階、いずれの看護職にとっても必要である。そしてその段階により、必要とされる復職支援は異なり、個々の看護職のもっているスキルや希望の就職先に応じてカスタマイズ可能な、自由度の高い研修プログラムの必要性が明らかになった。一方、看護職本人だけでは自身に必要な内容を取捨選択することが困難な状況があることがわかった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他 なし

表 1. インタビュー参加者

| ID | 年代 | 都道府県（地域） |
|-----|-----|----------|
| N1 | 40代 | 山形（市部） |
| N2 | 40代 | 佐賀（市部） |
| N3 | 30代 | 愛知（郡部） |
| N4 | 30代 | 愛知（市部） |
| N5 | 40代 | 宮城（大都市部） |
| N6 | 60代 | 愛知（大都市部） |
| N7 | 40代 | 福岡（市部） |
| N8 | 30代 | 千葉（市部） |
| N9 | 30代 | 愛知（市部） |
| N10 | 30代 | 愛知（大都市部） |
| N11 | 40代 | 福岡（大都市部） |
| N12 | 40代 | 大阪（大都市部） |

表 2. 復職支援についてのインタビュー結果

| 復職支援を受けようと考えた動機・経緯 |
|--|
| <p>一步踏み出すのにだいぶ壁は高かったが、ブランクがあって自分ではできないとわかっているなかで、復職したら年下の同僚にいろいろ聞かないといけないと思ったので受講した。</p> <p>再就職するにあたり、ブランクによる技術面（採血）での不安があった。</p> <p>気になる施設をみつけたが詳しい情報が記載されてなく、ナースセンターに確認してもらった。</p> <p>ナースセンターのホームページを自らチェックして研修があることを知った。働きたくても家族が復職に反対していたので、研修に参加後も「就職しなくてもよい」というのが安心材料になり受けた。</p> <p>子が 1 歳になりもう一度働きたくなったタイミングで、ナースセンターから「離職者が実技や知識を振り返る機会がある」と聞き、必ず就職しなくてもよいとのことだったので、参加してみようと思った。</p> |
| 復職に役立った支援 |
| <p>講義と演習をうけて忘れた知識を振り返れたことと、「自分だけじゃないんだな」というのが安心につながった。</p> <p>ナースセンターの人が就職先を調べてくれ、施設側に聞きたいことを代理で聞いてくれた、面接の日程調整と、面接後のフォロー連絡が心強かった。</p> <p>ナースセンターの相談員がちょうどタイミングよく電話で状況を確認してくれた。親身に話をきいてくれて、対応が早かった</p> <p>電子カルテと紙カルテの併用、褥瘡予防、慢性期はリハビリを中心とした看護、薬剤の取り扱いも急性期病院より少なかった急性期は早期離床など、病院によって重点となる看護や使用物品が異なっていることがわかり、復職先選びの参考にはなった。</p> <p>クリニック希望だったので、採血がたくさん練習できたのがよかった。他の研修では、施設での実習もあったようだが、自分はそこまで求めていなかった。</p> |
| 復職に向けてもっと必要だと感じた支援 |
| <p>ナースセンターでは施設の面接に同行してくれず心細かった（派遣会社は同行あり）</p> <p>ナースセンター、ハローワークでは細かい情報までは得られにくい。施設が出している簡単な情報しか得られず、もう少し踏み込んだ情報を得たかった。</p> <p>ナースセンターでの就職は正規職員での就職とのイメージがあったので派遣会社に登録していた。</p> <p>ナースセンターは、雇用条件だけでなく、どこの病院は何が強くて、どういう看護部長がいて、どんな教育しているか、学会にどれだけ参加しているのか、などの情報を含めて紹介してほしい。</p> <p>ナースセンターは研修もいろいろやっているはずなので、どこの病院がどのくらい積極的に参加しているかというデータを情報として提供してほしい。</p> <p>ナースセンター、ハローワークでは細かい情報までは得られにくい。施設が出している簡単な情報しか得られず、もう少し踏み込んだ情報を得たかった。</p> <p>ナースセンターは、キャリアを活かせる場所を紹介してほしい</p> <p>e ナースセンターで入力した様々な情報がマッチングにいかされるようにしてほしい</p> <p>e-ラーニングはもうすこし長いスパンで学べるとよい。</p> <p>e-ラーニングなどで最新の根拠に基づいたケア実践や知識を学べるツール</p> <p>疾病について看護診断の助けになるような、いつでも参照できるオンライン上のツール</p> <p>採血や吸引などの動画。手技の他に、使用されている物品のことも知ることができるように。</p> <p>オンライン教材だと、10分程度のものが育児の合間にできてよい。</p> <p>講義ならオンラインであれば参加できるが、なかった。</p> |
| <p>1 日ばかり 4 日間の研修（病棟で実習形式の）が組まれていたが、子どもがいる中で、9 時から 16 時という時間帯は参加できない。時短でやったり、時間の融通が利くようにしてほしい。</p> |

復職にあたり本を買い直したり、自分でネット検索して、ブックマークして後で見返した。いろいろなサイトに散らばっているので、ひとつのところに情報が集まっていて、選んで見れるものがあるとよい。

研修は月 1 回など日にちが限定されタイミングが合わず受けられなかった。午前中のみ行う単発の採血演習など、基礎的な看護技術研修があり、受けたかったが受けられなかった。

復職後はまず電子カルテを覚えるのが大変だった。多少なりともこんな感じ、というのが分かっていたら、助かる。

久しぶりな手技は最初の不安が大きいので、少しでもやっておけるように、気軽に行けて練習できる環境があるとよい。

病棟実習が半日や 1 日だけでなく、連日して同じ患者を看るとか、看護提供体制や業務の流れなどがわかるような体験がしたかった。病院を選ぶ際の参考になる。

実技演習で学んだ手技や使用した物品が復職先でも同じとは限らないので、病院で実際を見た方がより就職につながると思う。

病院就職を想定したセミナーが多いので、介護やデイサービスへの就職を希望する人向けのセミナーもほしい。訪問看護のセミナーはあったが、介護施設向けのセミナーはなかった。

受けたいと思った時に受けたいセミナーがなかった。病院では月 1 回の頻度でやっていたので、頻度が高い方が受けやすいが、病院より看護協会で行っていただいた方が就職のプレッシャーがなく気軽に受けられる。

職場 1 日体験で、どんな業務があるかを具体的に知れたら良かった。働く上での時間の流れ方を体感できるとよい（就職する施設を決める前に情報収集として）

施設によって清潔の概念が異なるので、研修で基本的なことを学んでも、施設での実際は難しい。

復職を決めた人だけでなく、復職するかどうか迷っている人でも気軽に受けられるものとして募集してほしい。そこで看護の魅力を伝えられれば、復職への後押しになる。

復職した後も受けられる採血などのセミナーがあるとよい。

働く場の多様性を伝えてほしい。様々な場所で必要とされているということを伝えてほしい。

(資料 1)

看護職用インタビューガイド

1. 現在までの看護職としてのご経歴を教えてください。
2. 離職から復帰するにあたり、どのような支援を受けましたか？（ナースセンター、ハローワーク、職業紹介事業者等）
3. その支援は、いつ・どのように受けられましたか？
4. 支援を受けようと考えた理由・動機を教えてください。
5. 支援を受けて、役立ったと感じているのはどのような点ですか。
 - 1) 復職に役立った点
 - 2) 就業継続に役立った点
6. もっと必要だったと感じる支援はありますか。
 - 1) 復職について
 - 2) 就業継続について
7. 復職することを決定するにあたり、悩んだこと／後押しとなったことはありますか。
 - 1) 悩んだこと...どのようにして乗り越えましたか？
8. （就業していない者）復職後、離職をした理由を教えてください。
9. （就業していない者）その理由は復職前に想定していましたか。
10. （就業していない者）復職前に受けていたら離職に至らなかったかもしれないと感じる支援はありますか。
11. 復職した看護師が就業を継続するために、復職後に提供してほしい支援や学習機会、学習ツールなどはありますか。